



タイム
スリップ!

きょうりゅう い じだい 恐竜が生きる時代へ

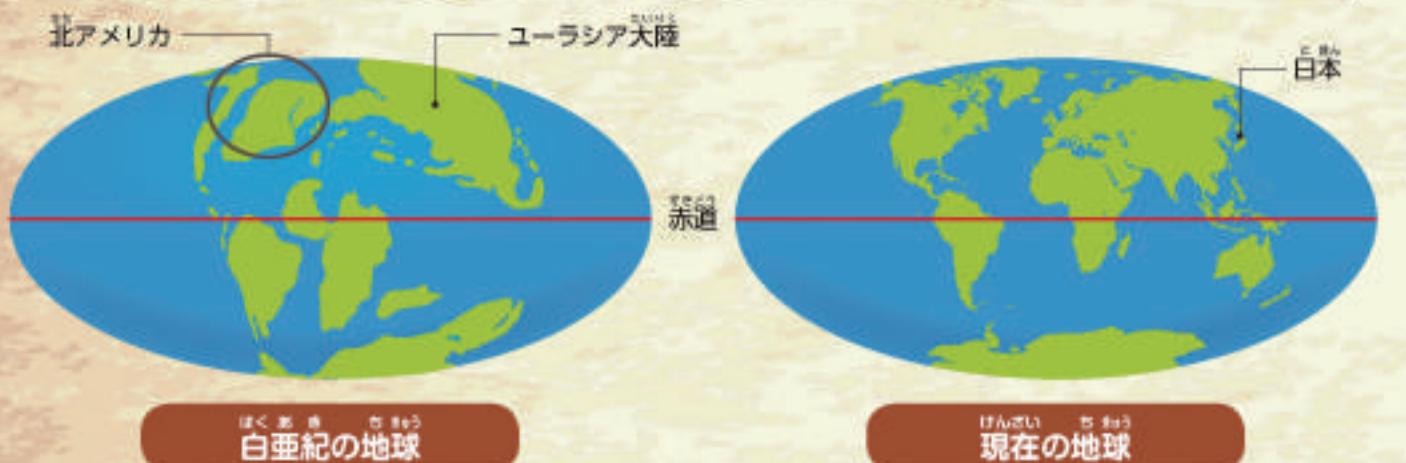


白亜紀後期のアフリカのマダガスカルで、大型の獣脚類マジュンガサウルスがなまと激しく争っています。縦張り争いのためやメスをかけてオスが競っていた可能性のほか同じマジュンガサウルスにかまれた歯形が残る化石が見つかっていることから共食いをしていた可能性があります。

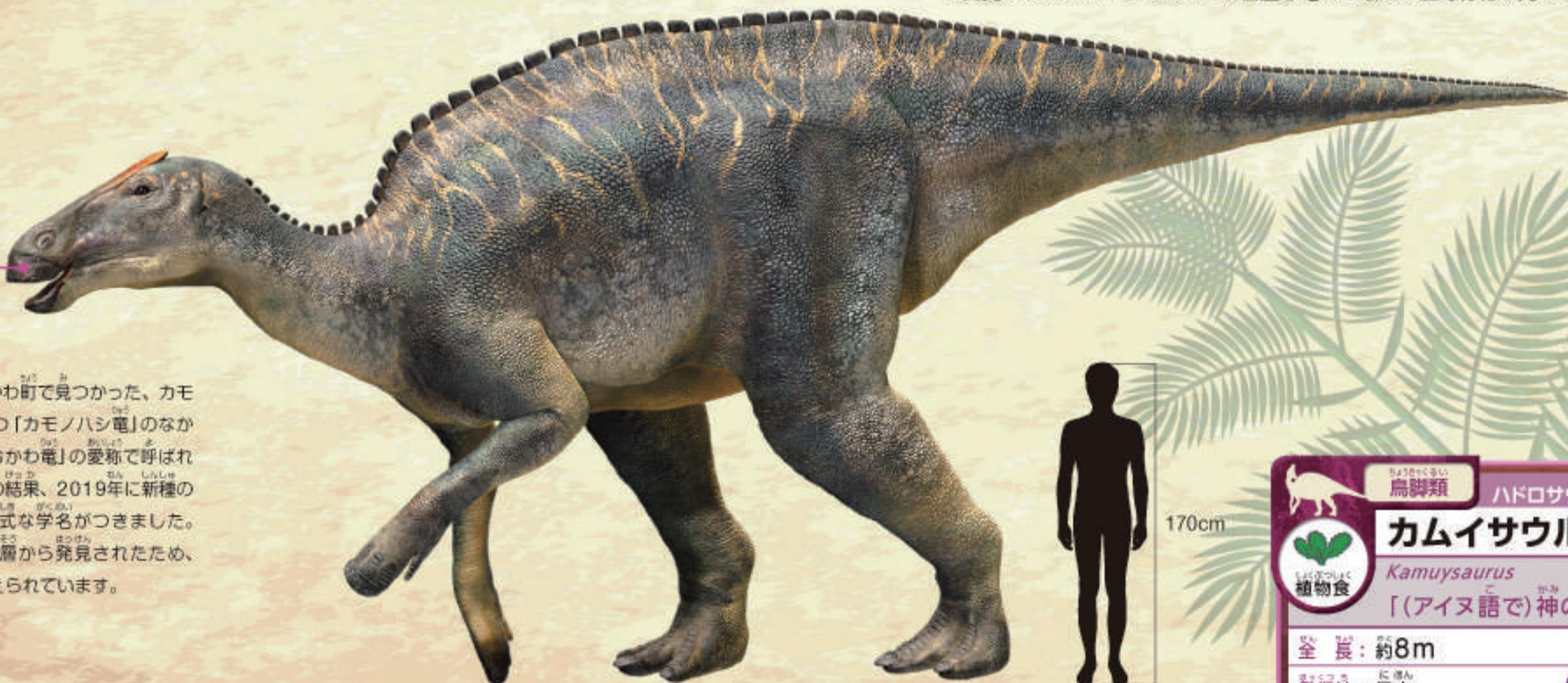


マジュンガサウルス P.22

ちゅうせいだい にほん きょうりゅう 中生代の日本と恐竜



2003年に北海道むかわ町で見つかった、カモノハシ竜の名前です。これまで「むかわ竜」の愛称で呼ばれていましたが、研究の結果、2019年に新種の恐竜と認められ、正式な学名がつきました。陸から離れた海の地層から発見されたため、海岸沿いにいたと考えられています。



にほん しま たいりく いちぶ 日本は島ではなくユーラシア大陸の一部だった!

中生代のはじめ、パンゲア（第1巻）という大きな大陸がありました。しかし、ジュラ紀ごろ南北に分かれて、北側はローラシア大陸（第2巻）となりました。ローラシア大陸は、東側のユーラシア大陸（P.28）と西側の北アメリカに分かれます。現在の日本は、ユーラシア大陸の東の端にありました。1978年、岩手県岩泉町茂師で化石が見つかり、日本ではじめて恐竜の化石と認めされました。しかし、この化石は竜脚類の前脚の一部のみで保存状態がよくないので、学名ではなく、通称で「モシリュウ」と呼ばれています。その後、恐竜の化石が1981年から見つかり、新種と認められて学名がついたものは8種あります。そのうちの5種は、化石発掘数が日本一の福井県で見つかった恐竜です。最新の新種は、中生代は海底だった北海道の地層から発見されたカムイサウルスで、国産恐竜では最大の全身骨格が見つかっています。

鳥脚類	ハドロサウルス類
カムイサウルス	Kamuysaurus
「(アイヌ語で)神の竜」	「(アイヌ語で)神の竜」
全長：約8m	全長：約8m
発掘地：日本	発掘地：日本

1989年に福井県勝山市で発見されました。「フクイリュウ」の愛称でも呼ばれ、頭部や胴体の主要な化石が見つかっています。イグアノドン(P.15)のなかまで、前あしの親指にはイグアノドン類特有のするどいトゲがありました。がっしりとした上アゴが特徴です。



170cm



	鳥脚類	ランベオサウルス類
	植物食	<i>Nipponosaurus</i>
		「日本の竜」
全長:	約4m	白亜紀後期
発掘地:	ロシア	

	鳥脚類	イグアノドン類
	植物食	フクイサウルス
		<i>Fukuisaurus</i>
		「福井の竜」
全長:	約4.7m	白亜紀前期
発掘地:	日本	

1934年に当時の日本領土だったサハリン(樺太)で発見され、日本人がはじめて研究し、学名をつけた恐竜です。全身の約60%の化石が見つかっていますが、ランベオサウルス類特有のトサカは見つかっていません。この化石の恐竜はまだ子どもたちことがわかっています。

日本の恐竜以外の生きもの

魚竜類



ウタツサウルス

三疊紀前期 | 日本、カナダ

宮城県歌津町(現在の南三陸町)で発見された全長約3mの原始的な魚竜です。背びれはなく、尾びれも発達していないため、体をくねらせて泳いでいたと考えられています。前後のあしと骨盤の形に、陸にすむ爬虫類の特徴が残っています。

首長竜類

魚竜類と同じく海をすみかにした爬虫類。中生代を通して繁栄し、白亜紀末に絶滅しました。首が長い種類と首が短い種類があります。前後のあしは大きなひれになっていました。

フタバサウルス

白亜紀後期 | 日本

福島県の双葉層群という地層で発見された全長約9mの首長竜で、「フタバヌスキリュウ」の愛称でも呼ばれます。骨にはサメに食べられた跡が残されていました。アニメ映画に登場し、有名になりました。

